

第41号

高石市

青少年健全育成

発行所
高石市青少年健全育成推進会
(高石市教育委員会)
〒592-8585
高石市加茂4丁目1番1号
TEL 265-1001

高石っ子憲章

高石市青少年健全育成推進会 昭和61年7月15日制定

わたしたちは、高石っ子が自ら豊かな社会をつくり出し、たくましく生き抜く人間に成長することを願っています。そのため、家庭・学校・地域の協力のもと、自由と平和を愛し、正義と秩序を重んじ、たがいに尊重しあう民主的な人間に育つことをめざして、この憲章を制定します。

- 高石っ子は、ひとりひとりがえのない人として、たがいの人権を尊重する人間になりましょう。
- 高石っ子は、自ら学び、考え、判断し、豊かな創造力とひろい心をもった人間になりましょう。
- 高石っ子は、自然や人間のいとなみに感動し、生きること感謝し思いやりのある人間になりましょう。
- 高石っ子は、いかなる困難にも立ち向かう意志の強い人間になりましょう。
- 高石っ子は、家族のふれあいを大切に、家族の一員としてよりよい家庭を築きあげる人間になりましょう。
- 高石っ子は、あらゆる活動の場を通して、豊かな体験を積み、心身共に健康な人間になりましょう。
- 高石っ子は、人や郷土・地域を愛し、社会に役立つ人間になりましょう。
- 高石っ子は、歴史と文化を大切に、国際感覚を身につけた人間になりましょう。

【新型コロナウイルス感染症対策】

昨年の新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種について、医師会や市民の皆様のご協力を得て、12歳以上の接種率は全国平均を上回る約85%と高い水準となっています。

年明けからのオミクロン株による拡大に対し、3回目のワクチン接種につきまして、前倒しで順調に進めており、今後、「総合保健センター」や「カモンたかいし」で集団接種を実施します。

市民の皆様におかれましては、このワクチン接種を含め、気を緩めることなく引き続き、うがい、手洗い、手指の消毒、マスク着用

【学校環境の整備】

学校現場においても、検温、手洗い消毒、空気清浄機やCO2センサーの設置等、コロナ予防対策の徹底と、いち早く希望する教員等にワクチン優先接種を行いました。また、一部、新型コロナウイルス感染症の影響で学級閉鎖を要する状況となりましたが、登校できない子どもたちに対し、小・中学校の児童・生徒に配慮し



高石市長
阪口 伸六

「コロナに打ち勝つ！高石っ子を守る」

高石市青少年健全育成推進会会長

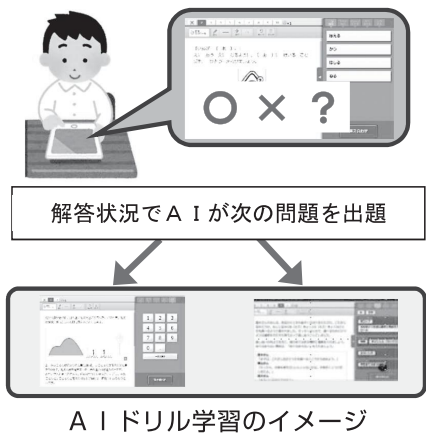
タブレットを活用して、授業のライブ配信や放課後等に学習内容を伝達するなど、オンラインによる学習保障を行い、学習に遅れが生じないように支援しています。

このタブレットについては、各学校の通常の授業においても工夫して活用されており、調べたことをまとめて分かりやすく発表するなど、様々なことに利用されています。



体育の授業において、タブレットを使ってグループで作戦を立てている場面

また、令和4年度に小学5・6年生及び全中学生を対象にデジタル教科書の提供が始まります。本市では、英語・算数(数学)・理科等のデジタル教科書を提供し、ネイティブの英会話やAIドリルを使ったより高度なICTを活用した最先端の学びの保障・充実を図ります。



学校環境の整備としては、災害時には避難所となるすべての小・中学校体育館への空調整備が完了しました。通常の体育授業はもちろん、卒業式・入学式も快適な環境で行えます。



空調が整備された体育館(羽衣小学校)

【松の実園(児童発達支援センター)をより安全・安心な新しい施設に】

児童発達支援センター「松の実園」と母子通園教室「バンビグループ」をより安全・安心な施設において療育が受けられるよう、旧北幼稚園跡地に移転・新築します。工事については、令和4年8月末には完成し、10月からは新園舎で子ども達が過ごせる予定です。

【高石駅前広場の芝生化】

高架化が完成した南海本線高石駅周辺の活性化をめざし、高石駅前広場を居心地の良い空間づくりとして「芝生化」します。

今後、高架下空間の活用も検討し、より魅力あるエリアとして備を進めます。

【オリンピックレガシーを未来へ】

昨年開催された東京2020オリンピック・パラリンピックで初めてオリンピックの正式種目となったスケートボードで、中学生の女子金メダリストが誕生し、日本中が歓喜にわきました。

本市においても、スケートボードを安全に楽しめるよう、令和4年度に高師浜総合運動施設のキャンプ場を改修し、スケートボードパークを整備します。また、スケートボード教室も開催し、マナー向上をめざします。

引き続き青少年健全育成に取り組んでまいりますので、市民の皆さんの温かいご理解、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



芝生化する高石駅前広場(イメージ)



スケートボードパーク(イメージ)

私たちの生活を話し合う会

～ わたしたちの学校園生活をより楽しくするために ～
今年度のテーマ「いじめのない学校をつくるために」

毎年、小学校・中学校が連携して開催されています。今年度で37回を迎え、令和3年12月23日(木)に高石市役所多目的ホールで開催されました。高石市立の小中学校から児童生徒の代表が集まり、各学校のいじめを許さない取組みについての発表を行いました。

高石小学校

「みんなで笑顔の輪を結ぼう
その言葉、人をききつけて
いませんか？」

【取組内容】

- 兄弟学級交流会
- ・他の学年と交流することで、思いやりや感謝の気持ちを育む。
- あいさつレンジャー
- ・あいさつをする人を増やしていくことで、朝から気持ちよく授業を受けることができる。

- 階段検定
- ・階段掲示(千支や都道府県英語での色や曜日)について検定試験を実施し、合格者は賞状を渡した。
- ピンクシャツデー(いじめ反対運動)
- ・いじめNO宣言としてピンクのシャツの形をしたカードにメッセージを書き、廊下に掲示した。

- これらの活動を続けていき、明るく元気で笑顔の輪を広げ、「いじめのない学校をめざす。



▲あいさつレンジャー

▼ピンクシャツのカード



羽衣小学校

「一人ひとりの想いを輝かせよう
いじめNO宣言」

【取組内容】

- あいさつ運動
- ・登校時に正門で挨拶を行い、学校を明るくする。
- グループパトロール
- ・雨の日など運動場に出ることができない20分休みに廊下を走ったり騒いだりしないように見回った。
- 生活目標の決定
- ・各学期に生活目標を決定し、朝礼などで報告した。
- 集会遊び
- ・「スタンプリリー」や「クイズ大会」など、代表委員会で考えた遊びを全校児童で行った。

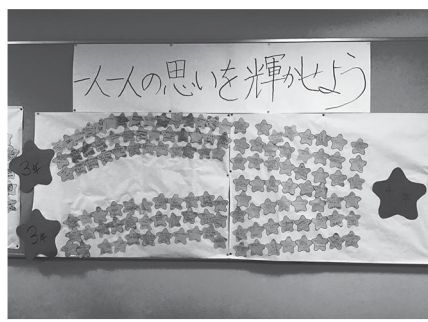
- 「一人ひとりの想いを輝かせよう」いじめNO宣言」プロジェクト
- ・代表委員でいじめについての劇を作り、各クラスで劇を見た後、授業で「自分ならどういう行動をとるか」、「クラスで同じようなことは起こっていないか」など、いじめについて話し合った。
- ・授業後に、「いじめをしないうために、いじめがおこらないために自分はどうしていいか、何ができるか」を星の形をした用紙に書き、それを夜空に輝く星になるように貼り付け、玄関に掲示した。
- ・「一人ひとりの想いを輝かせよう」という名前は、羽衣小学校がいじめのない、一人ひとりの気持ちが強く優しくキラキラするような学校

高陽小学校

「一人一人の宣言を玄関に掲示」

【取組内容】

- あいさつ運動
- ・あいさつレンジャーが門に立ち、あいさつができたらいじめさつカードを渡す。
- 夏休み・冬休みの過ごし方の啓発活動
- ・代表委員による劇を作成
- ベル着運動
- ・チャイムが鳴る3分前に放送で呼びかけ、ベル着ができたらチェックカードに印をつけ、クラスの目標が達成できれば放送朝礼で表彰した。
- ・ベル着運動後、「ベル着をやってみてどうだったのか」「クラスでベル着ができたとき、どんな気持ちだったのか」「これからベル着を学校



▲一人一人の宣言を玄関に掲示

取石小学校

「★ニコニコ★
100%楽しい！を合言葉に」

【取組内容】

- スマイル運動
- ・「学校生活を笑顔で楽しく過ごせるようにする」「いじめのない学校にする」という2つの大きな目標をきっかけ、毎年児童会を中心にして取り組んでいる。
- ・全学年にアンケートを実施したところ、多くの児童が「学校が楽しい」と答えている反面、「楽しくない」と思っている児童が想定以上に多いこと、相談できる相手



▲あいさつ運動

東羽衣小学校

「はなまる東小の
実現に向けて」

【取組内容】

- はなまる東小
- ・「はなしをきこう」「なかよく楽しくしよう」「毎日あいさつしよう」「ルールを守ろう」の4つのキーワードの頭文字で、これを合言葉に様々な活動に取り組んでいる。



▲笑顔200%運動

清高小学校

「いじめをなくすために」

【取組内容】

- ポスターによる啓発活動
- ・全学年の子どもたちに分かりやすく、いじめについて



▲ふわふわ言葉あつめ

全体で取り組んだらできるか」アンケートを実施した。その結果を受けて3学期に改善した「ベル着運動」を実施する予定。

○輝木(かがやき)

- ・相手思いやり、感謝することの大切さを知ってもらうため、3学期に、葉っぱ型のメモ用紙に、楽しかった事や嬉しかった事、友だちのいいところなどを書いて大型の木モチーフに貼っていく取組みを予定している。

がいなと感じている児童がいること、「学校で楽しいと思うこと」も、「楽しくないと思うこと」もどちらも友達に聞かせるものが多いことがわかった。

- ・アンケート結果を踏まえ、児童会で「楽しく過ごしていくための3つの方法」を考え、動画を作成し、動画について各クラスで話し合った。
- ・一緒に体を動かしているような学年の児童が関わり、知り合うことでもっと笑顔が広がればという思いから、スマイル運動の一環で、笑顔200%運動として、朝始業前に音楽に合わせて児童会でつくった体操とリズム縄跳びを行った。

○あいさつを広げる

全校児童であいさつスローガンを考えた。また、各クラスであいさつシールをためる「あいさつボトル運動」を行った。

○合言葉のシンボルづくり

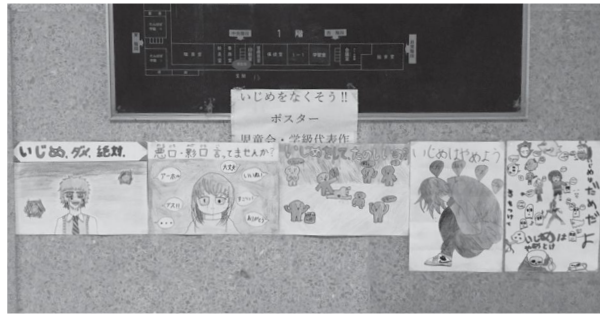
- ・いつでも目につくようなシンボルとして、みんなの手形をとり、玄関に大きな「はなまる」の掲示をした。
- ふわふわ言葉あつめ
- ・心が嬉しくなる、明るくなる言葉を「ふわふわ言葉」として集め、低学年・高学年に分けて階段に掲示した。
- 約束の羽 署名運動
- ・いじめのない学校にするため、「いじめ3ない宣言」(いじめは絶対にしない・させない・ゆるさない)を掲げ、署名運動を行った。集まった署名の羽は、はばたく6羽の大きな鳩の形にして中庭に掲示した。

考え、伝わるように、目につきやすい玄関にポスターを掲示した。

○劇による啓発活動

・いじめをなくすために、より楽しくみんなに考えてもらえるよう〇×クイズ形式で劇を撮影した。劇は「いじめなの、いじめじゃないの」と問いかけることで考え、自分の行動も振り返られるように工夫した。

○これからも皆で「いじめは許さない、そして冗談でも相手を傷つけることは言わない」ことを大切にして、いじめのない清高小学校を作っていく。



▲ポスターの掲示

加茂小学校

「あいする加茂小運動」

【取組内容】

○あいする加茂小
・「あいさつ」「いじめなく」「すくすくきれいな」るるん登校」の4つのキーワードの頭文字で、加茂小学校を、あいさつができ、いじめがなく、

「生徒会いじめアンケート」を作成し、全学年で実施し、結果を集計・分析した。

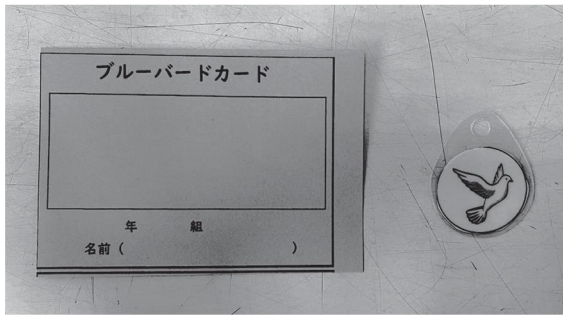
・ただアンケートをとるだけでなく、その結果やアンケートをもとに考えたことなどをみんなにわかりやすく共有するために、嫌な思いをした場面について再現した劇を動画にまとめ、文化活動発表会で全校生徒に視聴してもらった。

○いじめをなくすために
・先述の活動を通して、いじめをなくすためには「相手のことをよく知る」ことが大切であるという考えにたどりついた。今後、クラス対抗のイベント、あいさつ運動、いじめアンケートの継続実施を行い、お互いに相手がどんな人なのかを知り、関わりを持つ機会をつくっていききたい。

○「言葉のちから」の発表
・学校でよく使われている言葉を使い、受け止める側としてどのような気持ちになるかを考えてもらうため、映像を作成し、文化祭で発表した。また、学校生活の中であったかい言葉を増やすために、全校生徒が自分の「宣言の花びら」をつくり、生徒一人ひとりの言葉による「思いやりの花」を作成し、掲示した。

○「言葉のちから」の発表
・学校でよく使われている言葉を使い、受け止める側としてどのような気持ちになるかを考えてもらうため、映像を作成し、文化祭で発表した。また、学校生活の中であったかい言葉を増やすために、全校生徒が自分の「宣言の花びら」をつくり、生徒一人ひとりの言葉による「思いやりの花」を作成し、掲示した。

○「言葉のちから」の発表
・学校でよく使われている言葉を使い、受け止める側としてどのような気持ちになるかを考えてもらうため、映像を作成し、文化祭で発表した。また、学校生活の中であったかい言葉を増やすために、全校生徒が自分の「宣言の花びら」をつくり、生徒一人ひとりの言葉による「思いやりの花」を作成し、掲示した。



▲ブルーボードカードとストラップ

高石中学校

「いじめをなくすために」

【取組内容】

○いじめアンケート

葉を学級内で使う取り組みを行った。

○アンケートの実施

・いつも使っている思いやりの言葉と相手を傷つけている言葉についてまとめ、全校生徒に配布した。

・アンケートでは、友達に言われて「嬉しかったことがあるか」という質問で、8割の人が「ある」と答えているのに対して「嫌だったことはあるか」という質問では、4割の人が「ある」と答えた。嫌だったことより、嬉しかったことが上回っているが、2割の生徒が今までに嬉しかった経験がないということが課題となった。

○「言葉のちから」の発表
・学校でよく使われている言葉を使い、受け止める側としてどのような気持ちになるかを考えてもらうため、映像を作成し、文化祭で発表した。また、学校生活の中であったかい言葉を増やすために、全校生徒が自分の「宣言の花びら」をつくり、生徒一人ひとりの言葉による「思いやりの花」を作成し、掲示した。

○「言葉のちから」の発表
・学校でよく使われている言葉を使い、受け止める側としてどのような気持ちになるかを考えてもらうため、映像を作成し、文化祭で発表した。また、学校生活の中であったかい言葉を増やすために、全校生徒が自分の「宣言の花びら」をつくり、生徒一人ひとりの言葉による「思いやりの花」を作成し、掲示した。

○「言葉のちから」の発表
・学校でよく使われている言葉を使い、受け止める側としてどのような気持ちになるかを考えてもらうため、映像を作成し、文化祭で発表した。また、学校生活の中であったかい言葉を増やすために、全校生徒が自分の「宣言の花びら」をつくり、生徒一人ひとりの言葉による「思いやりの花」を作成し、掲示した。

○「言葉のちから」の発表
・学校でよく使われている言葉を使い、受け止める側としてどのような気持ちになるかを考えてもらうため、映像を作成し、文化祭で発表した。また、学校生活の中であったかい言葉を増やすために、全校生徒が自分の「宣言の花びら」をつくり、生徒一人ひとりの言葉による「思いやりの花」を作成し、掲示した。

○「言葉のちから」の発表
・学校でよく使われている言葉を使い、受け止める側としてどのような気持ちになるかを考えてもらうため、映像を作成し、文化祭で発表した。また、学校生活の中であったかい言葉を増やすために、全校生徒が自分の「宣言の花びら」をつくり、生徒一人ひとりの言葉による「思いやりの花」を作成し、掲示した。

○「言葉のちから」の発表
・学校でよく使われている言葉を使い、受け止める側としてどのような気持ちになるかを考えてもらうため、映像を作成し、文化祭で発表した。また、学校生活の中であったかい言葉を増やすために、全校生徒が自分の「宣言の花びら」をつくり、生徒一人ひとりの言葉による「思いやりの花」を作成し、掲示した。



▲ハピネスボックス

取石中学校

「いじめをなくすために」

【取組内容】

○リーダー研修
・毎年夏休みにリーダー研修を行っている。今年も夏休みに羽衣青少年センターにて研修を行った。「リーダーとは」「いじめをなくすためには」の2点を生徒会のメンバーで集まって話し合った。

・研修の内容をミートでの全校集会を通して発表し、その後「YOUはどっち派ゲーム」を各クラスで行った。
※「YOUはどっち派ゲーム」とは、クラスのメンバーに「犬派?猫派?」などの簡単な題材を示し、それぞれの立場で討論するもの。

○いじめ撲滅キャンペーン
「フレンドツリーを育てよう!」
・いじめの原因の一つは自分と他人との「違い」を認められないことにあると考えた。友達の個性を知ることによって仲が深まり、自分を閉じ込め

なくていい雰囲気を作ることができ、お互いの好きなことを知り合う活動として、自分の好きなことを葉に書き、みんなで木を育てる活動を、文化活動発表会の場を使い「友達の個性を知ろう」をテーマに呼びかけた。
・生徒会の発表に賛同してくれる人に各クラスでクラスカラーの葉を配布し、葉一枚一枚に自分の好きなことを書いてもらった。
・生徒会本部役員で、提出された葉を一枚の模造紙にまとめ、「フレンドツリー」を作成した。作成したものは正面玄関に掲示し、学校内外に向けていじめの防止を訴えた。
・参加してくれた生徒には、生徒会に賛成したという証の「ブルーリボン」を配布した。ブルーリボンは生徒の名札につけることができ、いじめをしないという思いを視覚的に残るようにした。生徒の大多数が胸にブルーリボンをつけている。

参加児童生徒の感想

・他の学校がしている活動など、色々なことを知ることができ、良い経験になった。自分たちも負けてはいられないと思った。自校にも取り入れて、いじめをなくしていきたい。

・「かまないかな」、「上手に言えるかな」など、皆の前で発表するのは緊張した。他の学校で、台本を読まないで話したり、スライドを自分たちで操作したりしていて、すごいと思った。

・話し合いを通して、注意をするときに、もう次からやめようと思える話し方(「だめだよ」ではなく「いじめをしたら相手はつらいよ」等)を意識しようと思った。

・いじめは絶対にいけないことと、それに向けての取組みを下の学年に伝え、小学校でも中学校でもいじめのない学校にしていきたい。

・身近なところでいじめで亡くなった人がいることを全員が知って自分たちにも起こる可能性があることを皆に伝えたいと思った。



▲作成したフレンドツリー



▲私たちの生活を話し合う会の様子

青少年健全育成推進会の主な取り組み

高石市青少年健全育成推進会では、次代を担う青少年たちが健やかに成長するよう、いろいろな取り組みを行っています。

令和3年度高石市青少年健全育成推進会事業報告

3年

★街頭指導

市内各小学校別に毎月1～2回実施（通年実施）
青少年健全育成の啓発推進及び愛の一声運動等を行うとともに、青少年のたまり場となりやすい場所を巡回し、非行防止と健全育成を図る。

11月

★青少年健全育成強調月間

ポスター掲示等による広報活動

★役員会

令和2年度事業報告

令和3年度事業計画

★青少年健全育成市民大会・社会を明るくする運動

場所：たかいし市民文化会館大ホール

参加者：143名

内閣総理大臣メッセージ朗読

高石市保護司会々長 中谷 正彦

講演：テーマ「子ども達をネットトラブルから守るために」

講師：KDDIスマホ・安全教室認定講師 瀬町 俊彦氏

12月

★わたしたちの生活を話し合う会

テーマ：「いじめのない学校をつくるために」

参加者：市内小中学校の児童生徒代表

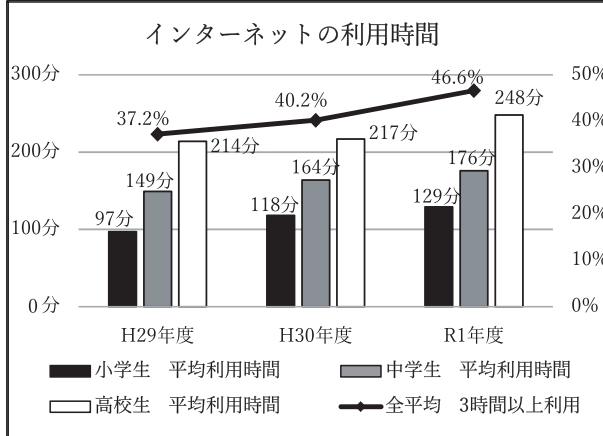
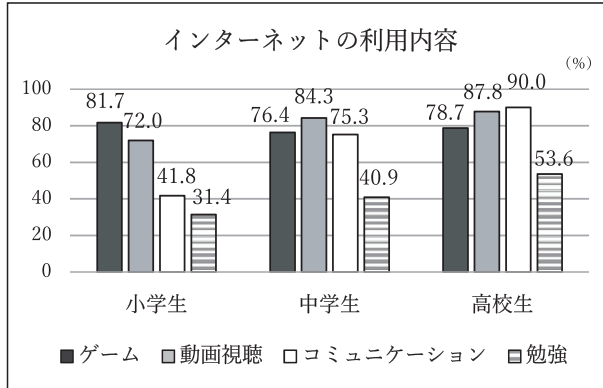
高石市青少年健全育成推進会構成団体名

(順不同)

高石市	高石市内ガールスカウト
高石市議会	高石市連合自治会
高石市教育委員会	高石市PTA連絡協議会
高石警察署	高石市社会福祉協議会
岸和田子ども家庭センター	高石市婦人団体協議会
堺少年サポートセンター	高石市母子寡婦福祉会
高石市内幼稚園	高石市少年補導員
高石市内認定こども園	高石市こども会育成協議会
高石市内小学校	高石市スポーツ少年団
高石市内中学校	高石市文化協会
高石市内高等学校	高石市体育協会
高石市内専門学校	高石商工会議所
高石市防犯協会	高石ロータリークラブ
高石市保護司会	高師浜ロータリークラブ
高石市更生保護女性会	羽衣ロータリークラブ
高石市人権協会	堺・高石青年会議所
高石市人権擁護委員	高石交通安全協会
高石市民生委員児童委員協議会	高石中学校区地域教育協議会
高石市社会教育委員	高南中学校区地域教育協議会
高石市青少年指導員協議会	取石中学校区地域教育協議会
高石市内ボーイスカウト	

青少年健全育成市民大会・社会を明るくする運動 講演

- 日時 令和3年11月15日(月)
- 場所 たかいし市民文化会館大ホール
- テーマ 「子ども達をネットトラブルから守るために」
- 講師 KDDIスマホ・安全教室認定講師 瀬町 俊彦氏



▲内閣府 青少年のインターネット利用環境実態調査(令和2年4月)

最初に、子ども達のインターネット利用の現状として、毎年内閣府でされている調査結果を見ると、小学生ではゲームでのインターネットの利用が1番多くなっているのが、中学生、高校生と成長するにつれて、ゲームは少し減少するが、動画視聴、SNSなどのコミュニケーション、勉強での利用は増加している。

また、インターネットの利用時間は、平成29年度から令和元年度までの3か年で見ると、小・中学生、高校生すべての平均利用時間が伸びている。3時間以上利用する子ども達は令和元年度においては、46.6%と半数近くに達している。

さらに、民間企業の調査になるが、近年のコロナ禍において、YouTube、SNS、ゲームアプリの利用が増えたという結果が出ている。

このように子ども達のインターネット

の利用が増加するにつれ、問題も増加している。インターネットは便利ではあるが、使い方が重要となる。法律上は、子どものインターネット利用状況の把握、フィルタリング等の活用による利用の適切な管理、適切に活用する教育が保護者の責務となっている。子ども達をネットトラブルから守るためには、保護者がインターネットの危険性を把握し利用のルールを子どもと共有すること、子どもと話し合いフィルタリングを導入することなど、子どもがネットトラブルを保護者に相談できる環境をつくるのがポイントとなる。

インターネットの危険性として、代表的なトラブルは、人間関係(いじめ、誹謗中傷)、依存(長時間利用、高額課金)、出会い・犯罪(性犯罪、誘拐、詐欺)が挙げられる。

人間関係の問題として、オンラインゲームで失敗した同級生を、ボイスチャットやSNSを通して強い言葉で責め続けた上、暴行にまで発展してしまった事例がある。直接顔を合わせず、夢中になりやすいオンラインゲームでは言動がエスカレートしやすい。インターネット上での感情制御の難しさ、思いやりの大切さを子どもと共有することがトラブルの防止に有用である。

動画やSNSなどに夢中になり、自分ではやめられず、正常な判断ができなくなるネット依存は、年々増加傾向にある。また、依存傾向にある子どもは、そうでない子どもと比べ、課金金額が高額になっている。保護者が子どもとともにネット依存の怖さを認識し、インターネット利用のルールを家族で決めることが重要である。この際、保護者も子どもも納得できる無理のないルールとし、定期的な見直しを行い、一方的なルール設定は行わないことがポイントである。

出会い・犯罪の事例としては、オンラインゲームで知り合った人に、子どもが自ら会いに行ってしまう、誘拐・監禁される事件が発生している。その他、SNSに起因する事犯の被害児童数も年々増加傾向にある。インターネット上でのやり取りにおいて、その人の発言や年齢、性別、写真を信用するのは危険である。インターネット上のリスクを認識し、まずは疑うこと、そして困ったときはすぐに保護者に相談するよう日頃から子どもに伝えてあげてほしい。

また、インターネット利用のルールをサポートするツールとして、スマホやiPadには「あんしんフィルター」「スクリーンタイム」という機能があり、段階的にフィルタリングをかけたり、利用状況を確認したりできる。これらを上手く活用し、子ども達が安全に正しくインターネットを利用できる環境をつくってほしい。